

## ガールスカウトが町に寄付 困っている人のために使って

ガールスカウト 岩手県第28団（織笠貞団委員長・団員17人）が、町に10,000円を寄付しました。昨年ていの11月に行われたチャリティーバザーでの収益金の一部を贈ったもので、3月31日に役場町長室で行われた贈呈式には同団から9人が出席。団を代表し山崎彩音さん（山田中1年）が「チャリティーバザーの売り上げを寄付します。困っている人たちのために役立ててください」と沼崎喜一町長に寄付金を手渡しました。沼崎町長は「毎年の皆さんの善意に感謝します。町の福祉のために大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。



## 「駅からハイキング」本町で初開催 自然や文化に触れ山田を満喫

3月21日、本町では初めてとなるJR東日本主催の日帰り旅行「駅からハイキング」が行われました。これは、全国のJR各駅を出発点に名所などを徒歩で探訪するイベントで、「牡蠣の町 山田 冬の海岸美と歴史探索」と銘打った今回の企画には首都圏などから29人が参加。陸中山田駅を出発した一行は、山田八幡宮や鈴木善幸元首相像、大杉神社などを散策しながら、途中立ち寄った六角塔では佐藤仁志さん（山田史談会会長）から道を切り開いた牧庵鞭牛和尚ぼくあんべんぎゅうの説明を受けました。その後は山田湾を眺めながら出発から約2時間でゴールのかき小屋に到着、カキ食べ放題を楽しみました。参加した皆さんは、山田の自然や文化を心行くまで満喫していました。

## 道の駅やまだでお客さま感謝祭 チャリティーの売上金を寄付

道の駅やまだでは3月20日と21日、「お客さま感謝祭」を開催しました。日ごろから同施設を利用している町民の皆さんに感謝しようといわれたもので、2日間で延べ2,000人の家族連れなどでにぎわいました。会場では、ホタテやイカなどの炭火焼コーナーが設けられたほか、同施設の商品券が当たる抽選会が行われました。また、大鍋で作るすり身汁を1杯55円で提供し、売り上げの全額をハイチ地震の被災者に寄付するチャリティーが行われると、温かいすり身汁を求める人たちが長蛇の列ができました。4月2日には同施設の豊間根章一理事長が役場を訪れ、売上総額3万円を日赤県支部山田分区長の沼崎喜一町長に手渡しました。寄付金は日赤本社を通じて被災者に届けられます。



温かいすり身汁は2日間とも完売しました（上写真）／道の駅やまだの豊間根理事長から売上金3万円が寄付されました



今月の題字

昆<sup>ゆかり</sup> 由香里ちゃん  
(織笠小3年)

# 町のわたい

## 織笠川でサケ稚魚放流会 大きくなって帰ってきてね

4月12日、織笠川で「サケ稚魚放流会」が行われ、織笠保育園の園児と織笠小学校、轟木小学校の児童ら43人が参加しました。同放流会は、子供たちにサケ資源の大切さや川をきれいにする心を養ってもらおうと毎年行っているもので、この日放流したのは三陸やまだ漁協が提供した体長約6㍓の稚魚5万匹。子供たちはバケツに入ったサケの稚魚に「大きくなって帰ってきてね」などと優しく声を掛けながら次々と川に放流すると、元気いっぱい大海に向かって泳ぎだす稚魚をいつまでも見守っていました。



## 道の駅で交通安全啓発活動 交通事故の撲滅願い呼び掛け

4月6日、町交通安全対策運動協議会（会長・沼崎喜一町長）では、「道の駅やまだ」で交通安全街頭啓発活動を行いました。春の全国交通安全運動の一環として行われたもので、町交通指導隊や町交通安全母の会の会員など47人が参加。交通安全を呼び掛けるチラシや圧縮タオル、ティッシュペーパーなどをドライバーに手渡し「スピードを控えて安全運転をお願いします」、「後部座席の方もシートベルトをしましょう」などと一声掛けながら交通事故撲滅を訴えていました。

## 豊間根小で交通安全教室 新入生らが交通ルール学ぶ

町などが主催する交通安全教室が4月19日、豊間根小学校（佐々木茂人校長・児童134人）で行われました。これは、交通安全に対する知識とマナーを理解してもらおうと町内の学校などで毎年開催しているものです。当日は、宮古警察署豊間根駐在所の古舘紀男所長と町交通指導員から自転車の安全な乗り方や道路の歩き方について学年に応じた指導が行われました。4月に入学したばかりの1年生は、大きく手を上げ左右を確認しながら校庭に描かれた横断歩道を渡るなど、熱心に交通ルールについて学んでいました。

